

機械設備の稼働監視による 稼働率の「見える化」と生産性の向上

課題

- ・ マシニングセンタの稼働状況が把握できていないため、機械が効率的に稼働しているかわからない
- ・ 就業時間外に稼働していない（推定稼働率1/3以下）

IoT導入による効果

- ・ 稼働データをPCに自動収集・グラフ帳票化
- ・ 稼働状況の帳票を毎朝スタッフに共有・改善検討
- ・ PDCAを実施することにより、稼働率・生産性を向上

企業情報

小菅精機(株)

住所 山梨県北都留郡小菅村4744-1
URL -

資本金 2,000千円

業種 製造業

従業員数 29名

事業内容 金属加工

半導体製造部品、
工作機械部品、
自動車部品等
の加工製造



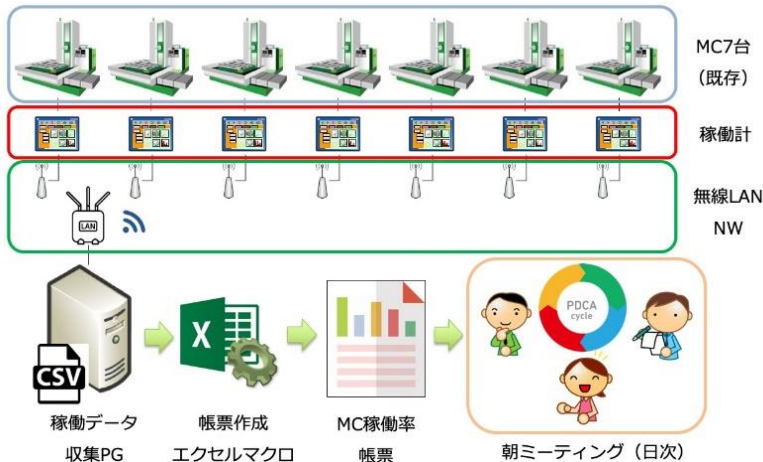
～課題の解決までプロセス～

①【IoT導入前の対応】

- ・ 社内で高齢化が起きており、生産性の向上が急務
- ・ 機械が効率的に稼働できていない。

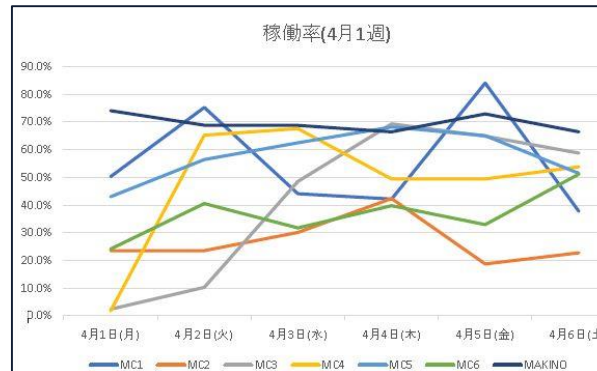
②マシニングセンタに稼働センサを設置

- ・ 稼働データを自動収集・グラフ帳票化、毎朝社内でも共有・改善検討



③【IoT導入後】

- ・ 就業時間外の稼働状況も見える化できたため、**就業時間外の自動稼働時間の向上**に積極的に取り組んでいる。
- ・ 稼働状況を社内に共有し、**従業員のカイゼン意識**にも寄与している。



【7台のマシニングセンタの稼働状況】

今後の展望

- 【現場】マシニングセンタの稼働状況を分析し、治具の制作を効率化することで、マシニングセンタの稼働率の向上を図る。
- 【経営】稼働状況と受注量を把握することで仕事量の調整の指標として活用する。